

【 政策名 】

【 施策名 】

【 事業名 】

【 事業費 】

(千円)

戦略6 教育・人づくり戦略

目指す姿1  
秋田の将来を支える  
高い志にあふれる人材の育成

目指す姿2  
確かな学力の育成

目指す姿3  
グローバル社会で活躍できる  
人材の育成

目指す姿4  
豊かな心と健やかな体の育成

目指す姿5  
地域社会の活性化と産業振興に  
資する高等教育機関の機能の強化

目指す姿6  
生涯にわたり学び続けられる  
環境の構築

施策関連事業	163,865
秋田を支える人づくり教育推進事業	58,941



## 政策評価（令和5年度）

政策評価調査

戦略6 教育・人づくり戦略					
幹事部局名	教育庁	評価者	企画振興部長	評価確定日	令和5年7月31日

## 1 戦略のねらい

本県教育の基本である「ふるさと教育」を一層推進しながら、心豊かで郷土愛に満ち、高い志と公共の精神を持って未来を力強く切り拓く人づくりに取り組みます。

## 2 施策評価の結果

施策	施策評価の結果			
	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)
目指す姿1 秋田の将来を支える高い志にあふれる人材の育成	E			
目指す姿2 確かな学力の育成	B			
目指す姿3 グローバル社会で活躍できる人材の育成	B			
目指す姿4 豊かな心と健やかな体の育成	B			
目指す姿5 地域社会の活性化と産業振興に資する高等教育機関の機能の強化	B			
目指す姿6 生涯にわたり学び続けられる環境の構築	B			

※施策評価の結果:A、B、C、D、Eの5段階で判定した結果

## 3 総合評価結果と評価理由

総合評価	評価理由
C	施策評価の結果を基にした定量的評価が「C相当（平均点2.50）」であることから、総合評価は「C」とする。

※定量的評価: 施策評価結果を点数化して平均点を算出し、A相当、B相当、C相当、D相当、E相当の5段階に判定する。

・施策評価結果の配点 A: 4点、B: 3点、C: 2点、D: 1点、E: 0点

・判定基準(平均点) A相当: 4点、B相当: 3点以上4点未満、C相当: 2点以上3点未満、D相当: 1点以上2点未満、E相当: 1点未満

※総合評価: 定量的評価を基本とし、定性的評価を考慮する必要がある場合には、総合的な観点からA、B、C、D、Eの5段階に判定する。

## 4 主な課題と今後の対応方針

目指す姿	課題（戦略の目標達成に向けた課題など）	今後の対応方針（重点的・優先的に取り組むべきこと）
1	県内企業への新規高校卒業就職者の3年後の離職率（平成31年3月卒業生: 29.4%）は、全国平均（同: 35.9%）を下回り、改善傾向にあるものの依然として高い水準にある。 など	離職防止のためのセミナー等を実施し、定着支援の取組を進めるとともに、就職支援員や教員が、卒業生が就職した県内企業を積極的に訪問し、卒業生と面談するなどのフォローアップを行う。また、県内や県外に再就職している離職者の割合等の実態把握や、離職者に対する県内再就職に必要な求人情報の提供等に努める。 など
2	1人1台端末が整備されて2年が経過し、授業にICTを活用して指導することができる教員の割合も向上しているが、ICT活用による苦手意識のある教員や上級レベルの教員への対応が課題である。 など	外部の専門人材を活用し、管理職向け研修やレベル別に細分化した教員研修を実施するとともに、ICTを活用した実践事例の共有を図る。 など
3	新型コロナウイルス感染症の影響もあり、対面での交流機会が減少してきたことから、ウィズ・アフターコロナにおける国際感覚や世界的視野を身に付けるための人材育成が求められている。 など	海外との交流や国際交流員による国際理解講座をオンラインも活用しながら引き続き実施するほか、インターナショナルデー等の開催を通して、県民の国際理解と人材育成の促進を図っていく。 など
4	スクールカウンセラーへの相談要請が増加しているものの、配当時間に限りがあるため、突発的な相談希望等により時数が増加した場合の対応に苦慮している。 など	スクールカウンセラーの年間配当時間の他に、あらかじめ緊急対応分の時間数を確保して、学校からの要請に対応するとともに、スクールカウンセラーの確保や拡充に向けた検討を進める。 など
5	卒業生の県内定着を図り、本県産業界等で活躍できる人材育成の取組が求められている。 など	学生が低年次から県内企業を就職先としてしっかりと意識できるよう、大学等が学生に対して行う県内企業と連携した取組やキャリア教育などに対し、引き続き支援する。 など
6	縄文遺跡群や風流踊など本県の文化財の魅力が認められつつあるが、地域住民が参加した保存や活用の取組が不十分である。 など	秋田県文化財保存活用大綱に基づき、観光部門や地域づくり部門、学校教育等と連携した取組を推進することで、地域住民の文化財を継承しようという気運を盛り上げ、保存と活用の相乗効果を図る。 など

※課題と今後の対応方針の各施策の詳細については、施策評価調査書を参照

## 5 政策評価委員会の意見

--

## 施策評価（令和5年度）

戦略6 教育・人づくり戦略			
目指す姿1 秋田の将来を支える高い志にあふれる人材の育成			
幹事部局名	教育庁	担当課名	高校教育課
評価者	教育委員会	評価確定日	令和5年7月31日

## 1 施策（目指す姿）のねらい（施策の目的）

ふるさとを愛し、社会を支える自覚と高い志を持ちながら、最先端のデジタル技術や高度な専門的知識を活用し、社会における様々な課題の解決や新たな価値の創造を実現できる多数の人材の輩出を目指します。

## 2 施策の状況

## 2-1 成果指標の状況及び定量的評価

	施策の方向性、指標名(単位)	年度	2019 (R元)	2020 (R2)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	直近の 達成率	判定	備考
①	【施策の方向性①、②】 高校生の県内就職率(公立、 全日制・定時制)(%) 出典:県教育庁「秋田県高等学校卒業者の 進路状況調査」	目標			75.5	77.0	78.5	80.0	97.7%	b	
		実績	67.7	72.5	73.8						
		達成率			97.7%						
②	【施策の方向性①】 将来の夢や目標を持っている児 童生徒の割合(小6、中3)(%) 出典:文部科学省「全国学力・学習状況調 査」	目標			85.0	86.0	87.0	88.0	95.8%	b	
		実績	86.2	-	81.4						
		達成率			95.8%						
③	【施策の方向性①、②】 高校生のインターンシップ参加率 (公立)(%) 出典:県教育庁調べ	目標			64.5	65.0	65.5	66.0	74.7%	d	
		実績	64.6	-	48.2						
		達成率			74.7%						

※ 指標の判定基準

a: 達成率 $\geq$ 100% b: 100% $>$ 達成率 $\geq$ 90% c: 90% $>$ 達成率 $\geq$ 80% d: 80% $>$ 達成率 $\geq$ 70% e: 70% $>$ 達成率  
n: 実績値が未判明

定量的評価結果	計算式
2.33 (E相当)	① a判定 × 0個 = 0点                      ④ d判定 × 1個 = 1点
	② b判定 × 2個 = 6点                      ⑤ e判定 × 0個 = 0点
	③ c判定 × 0個 = 0点
	①～⑤の合計 7点 ÷ 3個(判明済み指標) = 2.33

※ 指標の判定基準 a:4点 b:3点 c:2点 d:1点 e:0点

※ 成果指標において実績値が未判明となった指標がある場合には、それを除いて平均点を算出する。

※ 定量的評価の判定基準

A相当:平均点が3.6点以上 B相当:平均点が3.2点以上3.6点未満 C相当:平均点が2.8点以上3.2点未満  
D相当:平均点が2.4点以上2.8点未満 E相当:平均点が2.4点未満

## 2-3 主な取組状況とその成果

## 【施策の方向性① 地域に根ざしたキャリア教育の推進】

- 就職支援員(20名)、職場定着支援員(4名)を県立高校に配置し、求人開拓や、生徒・保護者に対する情報提供・進路相談を行ったほか、地域に根ざした企業を紹介する「ふるさと企業紹介」を実施した。これらの取組の結果、令和5年3月卒業生における県内就職率は、目標に届かなかったものの、過去2番目に高い割合となった。
- 児童生徒の望ましい勤労観・職業観を醸成するため、職業調べや職場見学、職場体験等を実施した。将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合は、新型コロナウイルス感染症の影響等により、目標に届かなかったものの、全国平均(73.6%)を大きく上回った。
- 高校において、ハローワーク等関係機関と連携し、インターンシップを実施した。参加生徒数は、47校2,967人(前年度比+782名)と、前年度よりも大きく増加したものの、新型コロナウイルス感染症の影響等により、目標を達成することはできなかった。

## 【施策の方向性② 社会の変化とニーズに応じた専門教育の推進】

- 産業人材育成事業において、洋上風力発電に関する県内企業等の専門人材を由利工業高校と男鹿工業高校に派遣し、特別講義を実施した。また、由利工業高校においては、秋田市雄和の航空機電動化システム研究開発の拠点施設の見学や、地元企業での技術研修を実施することにより、航空機に関する専門カリキュラムの充実を図った。

### 3 総合評価と評価理由

総合評価	評価理由
E	成果指標の達成率を基にした定量的評価は2.33で「E相当」であることから、総合評価は「E」とする。
	【定性的評価として考慮した点】 .

### 4 県民意識調査の結果

質問文	学校教育を通じて、ふるさとを愛し社会で活躍しようとする心が育まれている。					
満足度	調査年度	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	前年度比
満足度	肯定的意見	18.4%				
	十分 (5点)	2.3%				
	おおむね十分 (4点)	16.1%				
	ふつう (3点)	49.2%				
	否定的意見	15.5%				
	やや不十分 (2点)	9.7%				
	不十分 (1点)	5.8%				
	わからない・無回答	17.0%				
平均点	2.99					

※端数処理の関係で満足度の割合の合計は100%にならないものもある。

### 5 主な課題と今後の対応方針

施策の方向性	課題	今後の対応方針
①	<ul style="list-style-type: none"> <li>県内企業への新規高校卒業就職者の3年後の離職率（平成31年3月卒業者：29.4%）は、全国平均（同：35.9%）を下回り、改善傾向にあるものの依然として高い水準にある。</li> <li>新型コロナウイルス感染症の影響により、高校のインターンシップ受入先企業が減少した。</li> <li>特別支援学校による職業教育フェアで披露している作業学習の技能（ビルクリーニング、喫茶、縫製）と生徒の就労希望先等にミスマッチが生じている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>離職防止のためのセミナー等を実施し、定着支援の取組を進めるとともに、就職支援員や教員が、卒業生が就職した県内企業を積極的に訪問し、卒業生と面談するなどのフォローアップを行う。また、県内や県外に再就職している離職者の割合等の実態把握や、離職者に対する県内再就職に必要な求人情報の提供等に努める。</li> <li>新型コロナウイルス感染症の5類移行や受入先企業の行動の通常化に合わせ、各高校による新規開拓や職場定着就職支援員の企業訪問等により、インターンシップ受入先企業の拡大を図り、インターンシップ参加率の向上を図る。</li> <li>近年の就労希望先の傾向に合わせ、事務系の職域拡大に焦点を当てた事業を実施し、各特別支援学校における作業学習の技能等についても再構築を図る。</li> </ul>
②	<ul style="list-style-type: none"> <li>科学技術の進展や産業構造の変化等に伴い、地元企業等が生徒に求める専門的な知識・技術が変化しており、指導内容や指導する教員に必要とされる能力も高度化している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>成長産業に関する専門人材を活用した特別講義や県内企業等での技術研修の実施により、専門教育の充実を図るとともに、農業科と工業科の教員を対象としたスマート農業に関する研修の推進や、専門高校の教員を対象とした産業のデジタル化に係る研修を更に充実させることにより、全県規模での教員のスキルアップを図る。</li> </ul>

### 6 政策評価委員会の意見

--

## 事業評価調査(目的設定、中間評価、事後評価) (評価年度:令和5年度)

政策	戦略6 教育・人づくり戦略			
目指す姿	1 秋田の将来を支える高い志にあふれる人材の育成			
施策の方向性	① 地域に根ざしたキャリア教育の推進			
事業名	秋田を支える人づくり教育推進事業	事業年度	R4 R7	年度～ 年度
部局名	教育庁	課室名	高校教育課	
チーム名	指導チーム			

## 1 事業実施の背景及び目的

社会状況が大きく変化する中でも、高校生が自らの未来を力強く切り拓いていくために必要な資質・能力を身に付けることができるよう、高校生の学びを総合的に支援する。

## 2 事業概要及び財源

(単位:千円)

	事業内訳	概要	令和5年度 予算額	令和4年度 決算(見込)額	最終年度 決算(見込)額
1	キャリア教育充実事業	体験的な活動等を通して、社会的・職業的自立に必要な資質・能力を育成する。	4,811	2,781	
2	ふるさと人材・地域づくり推進事業	地域の一員として、地域のよさや課題を主体的に捉え、将来にわたって地域や社会に貢献できる人材を育成する。	50,441	51,434	
3	産業人材育成事業	専門高校等における新たな価値を創出する実践的・体験的かつ探究的な学びの充実を図ることにより、ふるさと秋田の次代を担う産業人材を育成する。	5,991	4,726	
4					
5					
その他合計 ( 件)					
財源内訳			61,243	58,941	0
左の説明					
国庫補助金	地方消費者行政強化交付金		450	48,203	
県債					
その他	労働保険料納付金		198	157	
一般財源			60,595	10,581	0

## 3 事業の効果を把握するための手法及び効果の見込み

## 【指標Ⅰ】

指標名	キャリア設計e-ミーティング参加者数(人)【業績指標】									
指標式	キャリア設計e-ミーティング参加者数									
出典	高校教育課調べ									
把握時期	当該年度9月									
年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
目標a							900	1,000	1,100	1,100
実績b							937			
b/a							104.1%	0.0%	0.0%	0.0%

## 【指標Ⅱ】

指標名	高校生の県内就職率(%)【業績指標】									
指標式	高校生の県内就職率									
出典	教育庁「秋田県高等学校卒業者の進路状況調査」									
把握時期	翌年度4月									
年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
目標a							75.5	77.0	78.5	80.0
実績b							73.8			
b/a							97.7%	0.0%	0.0%	0.0%

## ◎指標を設定することができない場合の効果の把握方法

## ①指標を設定することができない理由

--

## ②見込まれる効果及び具体的な把握方法(データの出典含む)

--

#### 4 中間評価

##### (1) 必要性(現状の課題に照らした妥当性)

判定	a	理由	キャリア教育による資質・能力の育成が、進路実績や資格取得などの成果につながっている。また、就職支援員等による支援に対する高校からの要望と期待は大きい。輸送機・新エネルギー・農林水産分野など成長産業を始めとする産業人材育成に対する地元企業からの期待は大きく、本事業の必要性は高い。
----	---	----	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(判定基準) a: 必要性が高い b: 一定の必要性がある c: 必要性が低い

##### (2) 有効性(事業目標の達成状況)

※指標設定ができない場合には「b」判定以下とする。  
※二つの指標を設定している場合には達成率の平均値により判定する

判定	b	理由	
----	---	----	--

(判定基準) a: 有効性が高い(達成率が100.0%以上) b: 一定の有効性がある(達成率が80.0~99.9%) c: 有効性が低い(達成率が80.0%未満)

##### (3) 効率性(限られた予算で効果を発揮するために努力した内容)

判定	a	理由	これまで対面で実施していた高大連携高校生サマーキャンプをオンラインに変えることで、予算を抑え、遠方からの参加を促したことにより参加者が251名から937名に増加した。
----	---	----	-------------------------------------------------------------------------------------

(判定基準) a: 効率性が高い b: 一定の効率性がある c: 効率性が低い

##### (4) 総合評価

判定	B	(※前回の参考結果)	
----	---	------------	--

##### 【総合評価の判定基準】

「A」: 「必要性」、「有効性」、「効率性」の観点全て「a」判定のもの  
「B」: 「A」、「C」以外の判定のもの  
「C」: 「必要性」、「有効性」、「効率性」の観点全て「c」判定のもの

#### 5 課題と今後の対応方針

##### (1) 事業推進上の課題

<p>キャリア設計e-ミーティングは、就職・進学を問わず、参加者の将来設計に資する有効な内容に工夫改善を加えながら取り組んでいく必要がある。就職支援員等の配置については、慢性的な支援員不足が解消できない現状では、配置を希望する全ての高校への対応に限界がある。産業人材育成では、地元企業等が生徒に求める専門的な知識・技術が変化しており、指導する教員に必要とされる能力も高度化している。</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

##### (2) 今後の対応方針

<p>キャリア設計e-ミーティングは、参加者数が増加傾向にあり、今後もオンライン開催による一層の充実を図っていく。就職決定率及び県内就職率の高い値を維持しているが、就職支援員等配置事業は、事業内容の大幅な変更も視野に入れて検討をしていく。専門高校において、成長産業に関する専門人材を活用した特別講義や県内企業での技術研修を行うほか、教員を対象とした授業改善等に関する研修会の実施等により、ふるさと秋田の次世代を担う産業人材を育成していく。</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

#### 6 事後評価

##### (1) 有効性(事業目標の達成状況)

※指標設定ができない場合には「b」判定以下とする。  
※二つの指標を設定している場合には達成率の平均値により判定する

判定		理由	
----	--	----	--

(判定基準) a: 有効性が高い(達成率が100.0%以上) b: 一定の有効性がある(達成率が80.0~99.9%) c: 有効性が低い(達成率が80.0%未満)

##### (2) 効率性(限られた予算で効果を発揮するために努力した内容)

判定		理由	
----	--	----	--

(判定基準) a: 効率性が高い b: 一定の効率性がある c: 効率性が低い

##### (3) 総合評価

判定		(※前回の参考結果)	
----	--	------------	--

##### 【総合評価の判定基準】

「A」: 「有効性」、「効率性」の観点全て「a」判定のもの  
「B」: 「A」、「C」以外の判定のもの  
「C」: 「有効性」、「効率性」の観点全て「c」判定のもの

#### 7 類似事業の企画立案に当たっての課題

--	--	--	--